The Zoological Society of Japan

雜錄

●白いカラス

カラスの風切羽五本ばかり純白なのが交つてゐるもの、及び風切羽に白いのがある外、頭部にも白羽毛が交つてタケガラスに似寄つたもの、前者は四五年高山郊外で獲られて今男子小學校に、後者は昨年十一月矢張り同町外で獲られて中學校に、標本となつて保存されてゐる。

今年三月卅日、美濃惠那郡付知町羽根方に飼養してゐる全身に黑い羽毛の一本もないカラスを觀た。全體は純白とはいへないが確に白いといつて差支ない。唯嘴のつき根から前頭部へかけて稍淡褐色を帶びてゐること、及び風切羽に淡褐色の朦げな汚斑點があることのみである。嘴は肉色を帶びて美しく、眼は蒼い。脚部は淡き蒼色を帶びてゐる。ハシブトガラスの變りである。

能く人に馴れて近寄つて來る。大盥に半ば水を湛へてあてがつてゐたが、當日春雨が靜に併しながら休みなく降つてゐたに拘らず午前八時頃早や第一回の水浴を終つてゐた。飼主のいふところに據れば、一日に二回は必ず水浴するとのことである。それでも實驗者の鼻にはカラスに共通の臭氣を感じた。元來ハシブトはハシボソよりも著しく臭いのが常であるが此白ハシブトも亦然うである。

此鳥は、今より四年前の晩春、同郡笠置村の或林木に營まれた巢から獲られたもので、同胞三雛中の一つである。其餘の二雛は普通の黑いカラスであつたさうである。

(川口孫治郎)

●再びヤマネに就て

余は本年二月號にヤマネに關する記事を掲げたるが其後此種の捕獲法及び飼養法其他を知り得たから追加として報告しようと思ふ。

ヤマネは日光の深山地方では各種の樹洞、樹枝上等に枯葉を集めて丸くして巢を造り又山中の堂宮の屋根下などにも巢を造ることがあると云ふ、樹洞内に居るものを捕獲するには先づその入口が能く擦れているかどうかを檢し擦れてをればその内に棲でいることが明である故其時には黐竿にて穴の中の材料を挿出し最後にヤマネを矢張り挿出して捕獲すると云ふ。

次にヤマネの飼養法に就て内田氏から報告せられた處によると「觀文獸譜」には次の如く書てあると云ふ。

ヤマネ(ヤマネヅミの畧語ならん)、日光山に產す寬政五、八月山口某より贈る、予これを養ふに其狀至て小にして廿日鼠の如く灰色にして背黑條あり、尾は粟色にして一遍し甚寒を畏る故にこれを養ふに箱の中に綿を入れ或は懷に抱て暖めざれば生育し難し、克く馴ること家鼠の如し、後某の話に日光山中冬陽に向ふ所の木孔中に群蟄し、數頭の暖を以て寒を防ぐと云ふ、或はモヽトリ長

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

せざる者と云へども肉翅無くして各別種なり、養法胡桃荏胡麻榧子黍稈麻子梯又は枝梯克くすりつぶし食はしむ、冬春までは小鳥の頭ばかりを入れて食はしむべし、巣は雉鷄及雁鳧の柔毛をいれ若くはうちわら櫻櫚も綿をもまじゆ、鳥毛の多きをよしとす。汚れは時々これを換ふべし。極て寒を嫌ふに因て火氣ある所にこれを置き、又冬は朝より晝の間日の克くあたる所に匣を置き暖氣を受けしむ、烟を嫌ふ、晝は餌を食はず巣に蟄し夜は餌を食し、氣を增すこと家鼠の如し。

又「古事類苑」動物部(二三三頁)によれば左の如き面白き記事があるのを發見した。

[土州淵岳志雜中] 山鼠

土州氣形深山幽谷適見之、其性怖塞氣、冬月蟄於荆棘竹藪之中、首尾無曲形如團炭採之、猶採石也、藏囊之如非生物、然或人持之、歸於府城、而囊之繫之竈上、而窺之、有日而覺囊微動也、括開見之生鼠也、遂走去。

右は土州に產することを知る、從來四國にては阿波にて獲られた學術上の報告あるのみで土佐にも產することは本種の一新分布地を附加し得たことゝ云へる、又齋藤宗雄氏より此種は山形縣西田川郡溫海川地方では每年唯偶然捕獲せらるゝものが多少あると報ぜられた。

(黑田長禮)

●櫛水母雜報

去る三月學會の席で三崎附近の櫛水母に就て報告したが、其後三月終から四月始にかけて同地に滯在して居る中に、少し新しい事實を知る事が出來たから茲に追加する。詳しくは別に述べる積りである。

(a)三崎附近の櫛水母の種類

1. *Hormiphora palmata* Chun.
2. *Bolinopsis mikado* (Moser).
3. *Leucothea japonica*, n. sp.
4. *Ocyropsis fusca* (Rang).
5. *Cestum amphitrites* (Meertens).
6. *Beroë cucumis* Fabricius.
7. *B. campanu*, n. sp.
8. *B. forskalii* Milne-Edwards.
9. *B. mitrata* (Moser).
10. *Coelophana willeyi* Abbott.
11. *C. mitsukurii* Abbott.

此中で(4)は *Ocyropsis maculata* と云ふ名で學會の時には報告した。其後四月一日に此大群が三崎に來たので、多くの標本を見た結果、從來別種とせられて居た此屬中の三者が實に同じ種に屬すべき者である事が分つた。其結果命名規約に據つて *fusca* と云ふ種名を採る事にしたのである。

(6)の *Beroë cucumis* と *B. ovata* とが恐らく同一種であらうと云ふ事は Mortensen の始めて云ひ出した事で、自分も稍詳しく調べた結果多分此考へが正しいだらうと云ふ事にして學會には報告して置いた。處が偶然な事から此考の當を得ない事が分つた。それは此春此種の

NII-Electronic Library Service